



フィレンツェの市街地を見下ろすフィエーゾレの小高い丘の上に建つ「Villa San Michele」の庭園アプローチ

ヴィラ サンミケーレ Villa San Michele

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



正面エントランス前の歴史を感じさせる回廊。ホテル建物の起源は15世紀のフランシスコ派の修道院まで遡る



かつての礼拝室の祭壇であった場所に隣接してレセプションデスクが置かれている



筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。
慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re入社。85年築地原健株代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。
www.jhrca.com/worldhotel



正面ファサードはイタリアルネッサンスの巨匠ミケランジェロの手により設計された。現在はイタリア政府保存委託建造物(重要文化財)に指定されている貴重な建物だ



フィレンツェ旧市街の圧倒的な景色を一望できるメインダイニング「The Loggia」



修道院当時の面影が色濃く残るホテル本館の横側部分



庭園の丘の上には素晴らしい眺望が得られる温水プールが用意されている



「最後の晩餐」のフレスコ画が残されているダイニング別室



トップライトからの陽光が気持ち良い大広間。朝食時にはビュッフェの幅広い料理が並ぶ



4つあるヴィラスイートの1つ「The Garden Suite」のベッドルーム。フィレンツェの市街を望む専用ガーデンが付随しており約75㎡の広さを有している



ヴィラスイート玄関から俯瞰した専用ガーデンのテラス部分



手前のゆったりとしたリビングルームと奥に見えるベッドルーム

ホテル建物の起源が15世紀初頭のフランシスコ派の修道院まで遡ると言えばビックリするであろう。さらに正面ファサードは、ルネッサンスの巨匠ミケランジェロの手により設計されたと聞けば尚更のことである。フィレンツェの中心部から車で20分の郊外、市街地を見下ろすフィエーゾレの小高い丘の上にヴィラ サンミケーレは建ち、その重要文化財にも指定されている白亜の歴史的ホテルがゲストを温かく迎え入れてくれる。館内随所に見られる内装に施された彫刻、壁や天井に描かれたフレスコ画、見事なアンティーク家具の数々は壮麗で優雅な雰囲気に満ちている。ゲストはあたかも有名な大聖堂や美術館に居るような錯覚を感じ、そこに悠久で孤高の美しさを見出すことができる。

館内に一步踏み入るとレセプションデスクがあるが、その荘厳な雰囲気に驚かされるであろう。実にこの空間はかつての礼拝室であり、一段高い所にある祭壇と隣接する事務系のデスクが違和感なく一体化され、天井から下がる豪華なシャンデリアと共にその室内レイアウトの妙に感服させられる。館内を奥に進むと明るいトップライトの大広間に辿り着く。ここはバー・ラウンジ「The Cloister Bar」で、朝食時にはビュッフェの幅広い料理が並ぶ空間にも利用されている。さらに隣にはキリストの「最後の晩餐」のフレスコ画が残されているダイニングの別室もある。ラウンジの先にはフィレンツェ市街の圧倒的な景色を一望できるメインダイニング「The Loggia」がある。固定のガラス窓は無く、半オープンエア方式で回廊を利用した気持ちの良いダイニングだ。ここでは食とワインの聖地、トスカーナの極めて質の高い豊穡の料理を楽しむことができ、宿泊客以外でも多くの食通が訪れている。

ホテルは21の客室と25のスイートを有するゆったりとした客室構成だ。スタンダードの客室は主に旧修道院の本館にあり、裏手の広大な芝生の庭園にはレモンやオリーブの木々、そしてバラが咲き乱れるイタリア式庭園を散策できる。庭園から丘の上にある温水プールに向かって階段状にテラス付きジュニアスイートが並んでいるが、すべて建物には蔭に覆われていて景観を損なわぬ配慮がなされている。反対側の山の斜面にはフィレンツェの市街を望む専用ガーデンが付随したスイートヴィラが佇んでいる。夕暮れ時、周囲がオレンジ色に染まり遠くドゥオーモやベッキオ宮殿が浮かんで見える景色は息をのむほどだ。

ヴィラ サンミケーレは幾多の歴史の変遷を経て、1982年よりオリエント・エクスプレス・ホテルズ社「Orient Express Hotels Ltd」によって運営されている。またリーディングホテル「LHW」の加盟ホテルとして、コモ湖のヴィラ デステと共にイタリア最高のヴィラホテルとして高い評価を得ている。郊外の立地ではあるが足の便も良く、市内中心部のレプブリカ広場までメルセデスのワゴン車による無料の送迎サービスがあり、筆者としても是非訪れて欲しい珠玉のホテルの1つとして推薦したい。